

令和3年度 八山系砂防総合整備計画フォローアップ検討会 議事要旨

日時：令和4年2月24日（木）

13:30～15:30

場所：web開催

1 議事

- 1) 前回検討会の意見について
- 2) 計画の進捗状況について
- 3) 次期アウトカム指標について
- 2) 令和4年度の砂防事業新規箇所について
- 3) 令和3年8月豪雨の被害と対応状況について
- 4) 最近の取組について

2 議事要旨

(1) 次期アウトカム指標について

委員：次期アウトカム指標の説明の中で、要配慮者利用施設等の優先順位の高い施設が増える要素は、基礎調査の2巡目で数が増えたからか。それとも、例えば新たに既指定箇所でも要配慮者利用施設が立地したためか。

事務局：ご指摘の通り、2巡目の基礎調査でも新たに要配慮者利用施設が確認されている。また、既指定箇所においては土砂災害特別警戒区域内（レッドゾーン）に新規要配慮者利用施設を建設することはできないが、既存物件をそのまま要配慮者利用施設として開設する場合や土砂災害警戒区域内（イエローゾーン）であれば開設することができるため、増加傾向にある。

委員：要配慮者利用施設の開設や閉所等の情報を更新していくことは非常に難しいと考えるが、どのように情報を更新していくのか。

事務局：関係市町村や健康福祉部局と連携し、情報を随時更新していきたいと考えている。

事務局：既存物件を利用し、土砂災害特別警戒区域（レッドゾーン）に要配慮者利用施設を開設される場合、建築基準法等による制限はできないのでしょうか。

委員：確認申請書が整っていれば、既存物件を利用した要配慮者利用施設の開設はできてしまうのが実態である。容易に避難できない方々が入所することを考えると部局間で情報を連携し、危険な箇所に開設しないよう促すことも大切ではないかと考える。

事務局：土砂災害特別警戒区域の情報を健康福祉部局にも提供し、危険な箇所での開設を少しでも減らし、被害を受ける方が少しでも減るよう、委員のご意見を参考にしてまいります。

委員：ソフト対策は順調に進んでいるが、ハード対策では防災拠点や避難所（イエローゾーン）等の優先順位2の数が膨大であること、市町村の地域格差が多いが、どのように進めていくか。

事務局：市町村の地域格差があってはならないと考えているが、優先順位2の中で順位付けをしてしまうと一向に整備が進まない市町村が出てきてしまうことも危惧される。ついては、土木事務所単位で優先順位2の中で優先順位を決め、真に必要な箇所のハード対策を進め、整備が遅れている市町村をフォローしてまいりたい。来年度の検討会で方向性をお示ししたい。

委員：基礎調査は地域的な地質等の違いは考慮せず、地形で区域を評価しているが、昨今の雨の降り方が地域的にも変わってきている。土壌雨量指数等を考慮して、危険度の高い箇所を絞り込むことも必要ではないか。
一方、緊急輸送道路は要配慮者利用施設と拠点をつなぐ大切なものであるが、すべてを砂防部局が担うと、いつまで経っても対策が終わらないと思われる。砂防部局と道路部局で担うものの整備箇所の方針を決めないと一向にゴールが見えてこないと考える。

事務局：土壌雨量指数等の新たな指標の精査のための材料として検討したい。気象状況を踏まえ、土砂災害警戒情報の1kmメッシュの中でもCLラインの小さいメッシュは集中豪雨には最も弱いと考えてられるため、次期アウトカム指標への検討材料とさせていただきたい。

緊急輸送道路は4千箇所を超えるが、道路だけを保全するハード整備は費用対効果的に砂防部局で整備を行うことは難しい。緊急輸送道路もありつつ人家を保全するような事業について整備を進めていく事業間連携事業が国から示されており、道路部局と連携してハード整備をより一層一体的に進めてまいります。

委員：土量雨量指数の考え方は全国一律での評価であるため、十分精査していただきたい。

(2) その他

委員：最近の取組みの中で、ドローン等の新技術が示されているが、あくまで点検するための道具にすぎず、頼りすぎることはないよう、真に点検が必要な損傷は、これまでの目視での点検をするなど留意していただきたい。

事務局：注意しながら新技術の採用を行ってまいります。